

## 第1回羽幌町総合教育会議 議事録

### 1 開催日時及び場所

- (1) 日 時 平成29年12月21日(木) 16時30分から17時15分まで
- (2) 場 所 羽幌町役場2階 幹部会議室

### 2 出席者及び欠席者の氏名

#### 【委員】

#### (1) 出席者

羽 幌 町 町 長	駒 井 久 晃
〃 副 町 長	江 良 貢
羽幌町教育委員会 教 育 長	山 口 芳 徳
〃 教育長職務代理	松 田 肇
〃 教 育 委 員	佐 藤 善 昭
〃 教 育 委 員	米 谷 日登美
〃 教 育 委 員	更 科 礼 子

#### (2) 欠席者

なし

#### 【関係職員出席者】

羽幌町教育委員会	学校管理課長	春日井 征 輝
〃	社会教育課長	渡 辺 博 樹
羽幌町	地域振興課長	酒 井 峰 高

### 3 傍聴者

なし

### 4 議題

- (1) 教育行政に係る情報提供と意見交換
  - ア 学力テストに係る情報交換
  - イ その他
- (2) その他

### 5 会議の内容

別紙のとおり

## 【会議の内容】

### 1 開会（酒井地域振興課長）

省略

### 2 町長挨拶（駒井町長）

省略

### 3 議題

#### (1) 教育行政に係る情報提供と意見交換

##### ア 学力テストの結果

資料に基づき下記のとおり説明（春日井学校管理課長）

（発言要旨）

この調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証した上で、その改善を図るもの、また、学校において児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するもので、調査の対象は、小学校6学年と中学校3学年である。

調査内容として、児童生徒に対する国語、算数・数学の教科に関するものであり、知識に関する問題として、国語A、算数A・数学A、活用に関する問題として、国語B、算数B・数学Bのほか、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するものがある。また、学校に対するものとして、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等について実施している。なお、今年度の調査期日は4月18日で、調査を実施した学校は、羽幌小学校、羽幌中学校、天売小学校、天売中学校、焼尻中学校である。

小学校の国語、算数の調査結果として、国語A全体の平均正答率は、全国・全道を下回っている状況で、前年度は全国を下回っていたが、全道と同程度であり、全道・全国との差が広がった状況である。国語B全体の平均正答率も全道・全国を下回っているものの、その差は前年度より縮まっている状況である。算数A全体の平均正答率は、昨年度と同様に全国を下回っているものの、全道を上回っている。算数B全体の平均正答率は、全国・全道を下回っている状況で、前年度は全道を上回っていたことから、前年度より全道・全国との差が広がった状況にある。しかし、年度によって差はあるものの、全道・全国との差が大きく広がらない状況が続いていることから、取組の成果が出ていると考えられる。

中学校の国語、数学の調査結果として、国語A全体の平均正答率は、全

道・全国を下回っているが、その差は前年度より縮まっている状況である。国語B全体の平均正答率は、全道・全国を上回り、前年度は、全道・全国を下回っていたことから、取組の成果が出た状況である。数学A全体の平均正答率は、全国・全道を上回り、国語B同様に取組の成果が出たと考えられる。数学B全体の平均正答率は、全道を上回り、全国は下回っているものの、前年度とほぼ同等の平均正答率となっている。前年度と比較すると、全体的に全道・全国との差が縮まっている傾向にあり、取組の成果が出ている状況となっている。

次に、児童・生徒に関する「学習に対する関心・意欲・態度、自尊感情・規範意識、学習の基礎となる活動・習慣に関する事項」の調査結果について、全道・全国と比較した主な傾向として、小学校では、一日の生活の中で「テレビゲーム等をする時間」、「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間」が多い傾向にある。一方、「学校の授業時間以外に一日当たり勉強する時間」、「家では自分で計画を立てて勉強している」割合が少ない傾向となっている。中学校では、一日の生活の中で「テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間」、「テレビゲーム等をする時間」、「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間」が多い傾向にあり、「家で学校授業の予習・復習をしている」割合が少ない傾向となっている。

以上から、小学校・中学校ともに、主に家庭における学習環境を整備する取組が課題として見ることができ、課題解決により児童・生徒の学力向上に寄与することが考えられる。

学校に関する「教科指導、学力向上、学校経営人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組に関する事項」の調査結果について、全道・全国と比較した主な傾向として、小学校では、「授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れた」、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」、「全国学力・学習状況調査の分析結果を学校全体で教育活動を改善するために活用した」「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った」割合が高い傾向にある。中学校では、「授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れた」、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」「数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った」割合が高い傾向となっております。

以上から、小学校・中学校ともに、学校が授業において目標を示す活動を計画的に取り入れ、また、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた傾向が高い状況となっている。小学校では、この傾向に加え、「全国学力・学習状況調査の分析結果を学校全体で教育活動を改善するために活用した」、「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った」割合が高い傾向にあり、学力テストの結果の差が大きくなる要因の一

つと考えている。中学校では、小学校の傾向に加え、「数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った」割合の傾向が高く、このことが数学A・Bで、ほぼ全道・全国と同等の平均正答率を維持している要因と考えられる。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果として、小学校の算数Aを除く教科と中学校の国語Aは、全道・全国の平均正答率を下回ったものの、全体的にその差が減少傾向にあり、中学校の国語B、数学Aは全道・全国の平均正答率を上回るなど、各学校の取組の成果が表れた状況である。これは、学力向上に関する取組の中で、朝学習、朝読書などの実施、学習規律の徹底、めあて・目標提示の徹底、授業の終末の工夫、補充学習の充実などの実践により、正答率の向上につながったものと思われる。

また、学校の授業以外での勉強時間が少ない傾向にあるが、「家庭学習のすすめ」の配布や「生活リズムチェックシート」などの活用による生活習慣の改善など、保護者への働きかけの成果がみられている。

今後は、さらに向上を目指し、小中の連携や家庭・地域との連携の一層の充実を図っていくよう取り組んでいくものとしている。

#### 【意見、質問及び回答】

○特に中学校で成果が出ているが、どんな取組をしたのか？

→平成25年頃は全国・全道平均から10%以上離れていたが、それ以降は右肩上がりに伸びている。学校の日頃からの取組の成果と言える。

○学力の向上は、子どもの成長にとって大切なことである。調査結果にあった「少ない家庭学習の時間」については、そこを「どう克服すべきか。」いつも話している。一方で、子どもには「大らかに育てほしい。」という想いもあり、バランスを保つ必要もあると思う。

○小学校が全国・全道の平均以下でも、中学校で伸びていることを踏まえると、小学校での勉強の成果が中学校で出ていると考えたい。

○調査結果の詳細なデータは把握しているのか？

→把握している。なかでも羽幌の子どもたちは、ゲーム等に時間を費やす傾向に多い。しかし、逆に言えば、家庭での勉強の時間が少ない割にこのような結果が出ているということは、ポテンシャルが高いと思う。

○民間の塾講師を招き指導を行っている学校があると聞く。やろうと思ったら出来ると思うが、今、地元で塾に通っている子どもはどのくらいいるのか？

→いるが、都会に比べると少ないと思う。

○羽幌は、本を読むには良い環境にあると思う。委員会事務局から話があったが、図書館司書の増員などもっと本に親しむ環境づくりについて考えてほしい。

→保護者からは、他のまちで行っている出産支援金などの要望も出ている

が、司書の件をはじめ、地元食材を使用した給食の提供、遊具の整備など子育てにかかわる環境整備は行いたいと考えている。

○今年から、新小学1年生に本を贈呈する「セカンドブックスタート」という取組を始め、本に親しむ機会を増やしている。

→取組を始めたものの、申し込まない家庭が多い。本に親しむ家庭環境を作っていかなければならない。

→幼児教育を見ていると、本を読むか読まないかで、その家庭環境が分かる。家庭環境を改善していく必要もある。

→親がそのような環境で育っていないため、本に関心を持たないと思う。

→図書館に行きやすい環境づくりも必要と思う。

○中学校の図書室は普段鍵がかかっているため、管理する方を配置するなどして改善を図りたい。

→生徒に管理させてもいいと思う。過去はそうしていたはず。

○朝食について、脳みそを動かすには温かいものを口にする必要があるとあり、それを習慣づける環境づくりも必要と思う。

→学校に管理栄養士が配置され、食育も行われている。PTAの集まりとかで指導する必要もあると思う。

→学校通信等で朝食の重要性を周知しているが、人が多い中での説明が必要である。

→今年度の調査で、対象は小学6年生と中学3年生だけであるものの、朝食をとらない子は意外に少なかった。

→朝食をとらない理由は何か、報告にあった調査とつながるものであり、総体的に考えていかなければならない。

イ その他

特になし。

(2) その他

特になし。

4 閉会（酒井地域振興課長）

省略